

人権教育学習指導案

単 元 名 「外国の学校に行ってみよう」

単元目標 ・「帰国・外国人児童生徒」への理解を深めることで、人権意識を高める。
・母国の様子や日本に来てからの自分について発信し、周りから認められることで、自己肯定感を高める。

指導計画（全2時間）

	学習のめあて
第1時	対象児童生徒がルーツをもつ国の、言葉や生活の様子について知り、日本の言葉や生活の様子と比べることで、それぞれの違いや良さを認めようとする態度を養う。
第2時	対象児童生徒の母語を使った授業を体験することを通して、お互いの気持ちを理解し、ともに成長していこうとする心情を育てる。

～実践についての留意点～

【時数の扱いについて】

・「外国の学校に行ってみよう」という2時間単元です。1時間目は、「日本語指導が必要な児童生徒」がルーツをもつ国の様子を知ることで、違いや良さを認めようとする態度を養うことがねらいです。2時間目は、言葉がわからない状況の体験を通して、「日本語指導が必要な児童生徒」への理解が深まることをねらいとしています。この2時間については、学級活動や総合的な学習など、学校の実情に合わせて、時間をとるように考えてください。

【授業の了承について】

・実践に当たっては、対象児童生徒本人と保護者の了承が必要になります。説明の際に通訳が必要である場合は、通訳ボランティアを手配します。

【ゲストティーチャーの手配について】

・第2時の対象児童生徒の母語での授業は、ゲストティーチャーを迎えて実施します。ゲストティーチャーの手配は、京都市の「多文化学習推進プログラム」の事業プログラムを利用する方法が考えられます。このプログラムの申請などについては、学校指導課人権教育担当が窓口になっています。

【授業の準備について】

・母国での生活紹介や、日本に来てからのことを伝える場面については、事前に対象児童生徒に聞き取りを行い、発表できるように準備します。聞き取りの際に通訳が必要であれば、通訳ボランティアの手配をします。発表準備については、日本語指導担当者の協力を仰ぐことも可能です。

■題 材 「日本以外の国の様子を知り，日本と比べてみよう。」

■第1時のねらい

- ・対象児童生徒がルーツをもつ国の，言葉や生活の様子について知り，日本の言葉や生活の様子と比べることで，それぞれの違いや良さを認めようとする態度を養う。
- ・母語や母国について自分の言葉で伝える機会を通して，日本語を話すことへの自信をもつことができるようにする。

■第1時の展開

学習活動 ○主な発問	・予想される子どもの反応 ※資料	・留意点●対象児童生徒への支援
1. 対象児童生徒がルーツをもつ国について知る。 ○（写真や資料を提示して）今日はある国について勉強しますよ。どこの国のことかな。	・あの国旗はどこの国のものかな。 ※対象児童生徒がルーツをもつ国の国旗や民族衣装，食べ物，有名な遺跡，動物などの写真など。 ※提示用の世界地図	・全員がはっきりと見える大きさの資料や地図を用意する。
2. 対象児童生徒が母国の生活の様子や学校の一日を紹介する。 ○～さんが，自分の国のことや通っていた学校の様子をみなさんに紹介してくれます。	・早く聞きたいな。 ・日本の学校とぜんぜん違うのかな。 ・給食がないんだな。 ・同じ勉強もあるな。 ・朝が早くて大変だな。 ※対象児童生徒の紹介内容を提示する資料 例：対象児童生徒が通学していた学校の時間割や一日の予定表など。	● 事前に聞き取りをして，提示物の準備や発表の練習をしておくことにより，自信をもって母国の様子を紹介できるようにする。 ● 日本語の力に合わせて紹介方法を考えることにより，わかりやすく紹介できるようにする。（自分で紹介する，担任の質問に答えるなど）
3. 質問や感想を出し合う。 ○もっと聞いてみたいことはありますか。紹介を聞いた感想も聞かせてください。	・宿題はあったのかな。 ・友だちとはどんなことをして遊ぶのかな。 ・テストはあるのかな。	・日本とよく似ていることと，まったく違うことがあることに気づかせるようにする。 ● 日本語の力に合わせて通訳を手配しておくことにより，安心して受け答えできるようにする。
4. 学習を振り返る。 ○今日の学習で感じたことや考えたことをワークシートに書きましょう。	・日本と似ているところや違うところがあったな。 ・挨拶の言葉以外の言葉も教えて欲しいな。 ・日本語で上手に紹介できていたな。 ・日本語で話せてよかった。みんなに聞いてもらってうれしい。 ※振り返り用のワークシート	・感想は板書していく。 ・日本と比べてどうだったか，どのように感じたかという視点で振り返る。 ・板書を見て振り返りができるようにする。 ● 紹介してみてどうであったかという視点を示すことにより，振り返ることができるようにする。

■題 材 「外国の学校で授業をうけてみよう。」

■第2時のねらい

- ・対象児童の母語を使った授業を体験することを通して、お互いの気持ちを理解し、ともに成長していこうとする心情を育てる。
- ・母語も日本語も身につけようとしている自分に誇りをもつ。

■第2時の展開

学習活動 ○主な発問	・予想される子どもの反応 ※資料	・留意点●対象児童生徒への支援
1. 前時の学習内容を思い出す。 2. 日本語以外の言語で簡単な算数（数学）の授業をうける。 ○今日はこれから～さんの通っていた学校に行って授業をうけてみましょう。	※提示用の世界地図 ・みんなで一緒にいくのかな。 ※違う国に行く場面設定で使用する、写真、効果音、資料など ・何を言ってるのかわからないよ。 ・早く終わらないかな。 ・数字を書いたから算数なのかな。 ・～さんはわかっているすごいな。	・第1時の内容が想起できるように、教室掲示等を工夫する。 ・違う国の学校に行く、ということがイメージできる場面設定をする。 例：飛行機やその国の写真を映し出す。ゲストティーチャーとの交代場면을工夫する、など。 ●対象児童生徒に、事前に授業内容を説明することにより、受け答えすることができるようにする。
ゲストティーチャーによる母語での授業		
3. 授業を受けて考えたことや感想を出し合う。 ○授業を受けて感じたことや考えたことはありますか。 4. 対象児童生徒のおもしろいを知る。 ○～さんは日本に来てから、どんなことを感じたり考えたりしたのでしょうか。 5. 学習を振り返る。 ○今日の学習で思ったことや考えたことを書きましょう。	・何を言っているのかわからないから困った。 ・不安だった。 ・～さんは全部答えていて、すごいなと思った。 ・言葉がわからなくて嫌だっただろうな。 ・日本語で上手に発表しているな。 ※対象児童生徒が書いた作文のプリント ・～さんは1年間でここまでがんばってきてすごいな。自分もがんばろう。 ・日本語がわからない時に、もっとゆっくり話しかければよかったな。 ・もっと、フィリピンのことを教えてもらったりしたいな。 ・私も、日本のことでわからないことをもっと友だちに聞いていこう。 ※振り返り用のワークシート	・ゲストティーチャーの授業は10分程度だったことを確認する。 ・授業の中で受け答えしていた対象児童生徒の様子にもふれる。 ・感想や考えたことを板書する。 ●事前に母語での作文や聞き取りを通して作文を準備し、練習しておくことにより、自信をもって表現することができるようにする。 ・作文のプリントは発表が終わってから配付するようにする。 ・板書や、対象児童の作文のプリントを見ることで、学習内容を振り返ることができるようにする。 ●学年全員の前で発表した自分の気持ちや、板書で友だちの感想を見直すことにより、学習を振り返ることができるようにする。